

# 令和7年度 学校経営計画表

## 1 学校の現況

### (1) 附属中学

学校番号	中学 7	学校名	茨城県立竜ヶ崎第一高等学校・附属中学校						課程		学校長名	太田垣 淳一				
教頭名	永野 絵里										事務長名	沢辺 貞男				
教職員数	教諭	12	養護教諭	1	常勤講師	0	非常勤講師	2	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	6	技術職員等	7	計	29
生徒数	小学科		1年		2年		3年		合計				合計 クラス数			
			男	女	男	女	男	女			男	女				
			20	20	19	19	20	20			59	59	3			

### (2) 高校全日制

学校番号	54	学校名	茨城県立竜ヶ崎第一高等学校						課程	全日制	学校長名	太田垣 淳一				
教頭名	松延 亮一			田中 豪一								事務長名	沢辺 貞男			
教職員数	教諭	50	養護教諭	1	常勤講師	7	非常勤講師	7	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	6	技術職員等	7	計	79
生徒数	小学科		1年		2年		3年		合計				合計 クラス数			
			男	女	男	女	男	女			男	女				
	普通科		143	97	136	103	137	101			416	301	18			

## 2 目指す学校像

10年先を透徹した生徒主体の探究型学習を通じ STUDENT AGENCY を育む

## 3 三つの方針（スクール・ポリシー）

育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）	<p><b>【高潔】</b> 自立した国際人の育成に向け、「一高」としての高い使命を貫徹する</p> <p><b>【誠実】</b> まっすぐ学びに向き合う、誠実で理知的な学びの場となる</p> <p><b>【剛健】</b> 質・量ともに高い結果を目指し、あくなき挑戦を続ける</p> <p><b>【協和】</b> 異文化に胸襟を開き、受容的で持続可能な社会の範となる</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）	<p><b>【生徒】</b> 21世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を創る</p> <p><b>【学校・教職員】</b> 時代にあった合理的で生産的な学校運営を行う</p> <p><b>【地域社会】</b> 地域と連携し共に成長する、開かれた学校となる</p>

<p>入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）</p>	<p>○高等学校全日制課程          本校の教育課程（カリキュラム）ならびに教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）にもとづき、高等学校において学びを深めながら、自らのキャリアを主体的に切り拓くために必要な、十分な<b>基礎学力</b>と<b>学習意欲</b>を有する人材。その上で、社会や自然に<b>興味関心</b>を持ち、それを行動や表現に移してきた人材</p> <p>○附属中学校          本校の教育課程（カリキュラム）ならびに教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）にもとづき、中学校において学びを深めるために必要な、十分な<b>基礎学力</b>と<b>学習意欲</b>を有する人材。その上で、社会や自然に<b>興味関心</b>を持ち、それを行動や表現に移すことのできる人材</p>
------------------------------------	--

#### 4 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
	<p>民間のノウハウを活かしてトップダウンでのスピーディな改革で組織を近代化；デジタル領域をはじめ国内有数の実践に導く</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高一貫化の完成（設置3年）</li> <li>・国内先端校としての意識と運営品質向上</li> <li>・持続可能な組織基盤の構築</li> </ul>
<p>資源と投資の視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代経営を導入（トッパーミドルーボトム）</li> <li>・SSH第3期指定（文理融合枠＋重点枠）</li> <li>・外資、コンサル、NPO、自治体等の関係資本を活用（R6例：法大キャリアデザイン学部）</li> <li>・附属中設置時からの教諭の異動時期が到来；単位制加配（教頭+1，教諭+5）</li> <li>・休職等による欠員・補充遅延のリスク；ミドルの定年・異動</li> <li>・外国籍教員、ALT増などを通じ組織多様性がやや向上</li> <li>・特別棟の長寿命化が完成；基幹系ネットワークの光ファイバ化（R7.9）</li> </ul>	<p><b>【戦略性を増した質の高い経営】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営／カリキュラム・マネジメントの堅持</li> <li>・SSH予算の計画的運用（対JST）</li> <li>・良質な関係資本の開拓・活用（専門家、実践家、TA等）</li> <li>・6年一貫運営の徹底；新任人材の早期立ち上げ；リーダー人材の見極めと選択的な育成</li> <li>・戦略部門への人材拡充（学習・探究・マケ）</li> <li>・財務の透明化・適正化（県費・団費・助成金）と<b>戦略的投資</b></li> <li>・ALTの効果的配置；<b>地域多国籍人材</b>の開拓</li> <li>・新・特別棟ならびにデジタル系の設備・備品の利活用促進</li> </ul>
<p>生徒／教育の視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒募集は少子化、公立離れと交通の悪さで先細りのリスクを抱える中、TX沿線等におけるターゲティングが奏功（附中4.4倍）</li> <li>・学力についてR6は地歴・数学が堅調（高1A数学61.6，高2地理55.5など）；内進生の底上げに成功（高1数学平均 内進58.8：高</li> </ul>	<p><b>【開かれた学びとやる気ある者に対する支援】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ターゲットされた生徒募集の継続；高入生募集における隣接県協定（千葉県北）の活用</li> <li>・少人数、学び合い、スパイラル等による確かな学びの提供；実績・能力の可視化と<b>データ</b>にもとづくPDCA（BI+アナリストの拡充）</li> <li>・附属中～アドバンスコースにおける教育開</li> </ul>

	<p>入 58.6)；思考力や表現力を育む深い学びへの質的転換は道半ば（授業評価 6 3.52）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究は附中を中心に筋のいい取組が開花</li> <li>・デジタル教育は国内を先導（「デジ探」設立、FGC 日本代表等）。質が課題（iPass 合格 4 名）</li> <li>・英検準 1 級合格者 2 桁を維持（12 名）；NZ 研修・海外進学説明会を実施（70 名参加）</li> <li>・「ホンモノのキャリア講座」開始（R6 3 回）</li> <li>・GMARCH 以上の合格者が継続的に伸長（昨年対+9）；難関大は不調；進路支援部が機能不全</li> <li>・生徒自治は未成熟（学園祭以外の動きが疎）</li> <li>・心の問題は高水準；ネット不祥事↑（SC 利用のべ 118 人；重大事件 2 件）</li> </ul>	<p>発；差別化された強みの先鋭化：①<b>総合知</b>を活かした課題解決 ②最先端のデータ・デジタル</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・探究人員の拡充；高 1S の方法改善と教員のスキル向上；社会科学領域の方法論確立</li> <li>・学ぶ動機につながる保護者・生徒向け<b>キャリア教育</b>の拡充；組織統合によるデジ・グロとの連携；進路支援機能の見直し（含：進路支援室の再生；総合型入試・海外進学への対応強化）</li> <li>・生徒会役員に対する継続的なエンパワメント；生徒の主体的活動のさらなる充実（校外学習・修学旅行の行き先など）</li> <li>・生支・保健の連携；心の問題・ADHD 等・ネット不祥事への教員対応力向上</li> </ul>
<p><b>業務プロセス</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R5 カリキュラム刷新、A/S 2 コース制開始</li> <li>・中高横断での人事・運用を推進</li> <li>・教科主体の縦串運営が浸透しつつあるも、一部学年・附属中の長屋文化が残る</li> <li>・月報・授業評価等のカリマネが多忙と複雑化によりやや息切れ（報告率 80%）</li> <li>・教員・生徒による広報活動は SNS が好調（インスタ 921 フォロワー）；HP・PR が不調</li> <li>・コロナ緩和による部活動偏重、無駄な出張等のリスク（月 80 時間超過 1 名）</li> <li>・ガバナンスは意識・仕組みとも継続的改善が必要（事故 1 件；当日報告 90%；ヒヤリハット複数）</li> <li>・いじめの積極的な認知を推進（中学 3 件、高校 2 件）</li> </ul>	<p><b>【合理的で生産的な組織づくり】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略・方針の理解徹底と裁量の枠内での創意工夫の奨励</li> <li>・中高一貫運営の徹底と発達段階による差異化</li> <li>・一人ひとりの生産性向上（目的、優先度、精度、責任感）＋負荷の偏りの是正</li> <li>・<b>選択と集中</b>＋シンプル化による実効性回復</li> <li>・マーケティング組織の拡充；HP・プレスリリースの正準化</li> <li>・ほうれんそう／承認の徹底・教員不祥事に対する継続的な注意喚起；いじめ防止・危機管理等における手順順守；部活動運営の適正化（継続）</li> </ul>
<p><b>学習と成長</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究が習慣化（年 2+1 回）</li> <li>・適正評価・適所配置・有能なミドルの登用</li> <li>・授業力・成長意欲に著しい濃淡</li> <li>・形式知へのとらわれ；学ぶ力の不足</li> <li>・ベテランのリスクリング・若手の育成に腐心</li> <li>・基本的な指導力がネックとなり ICT 活用力は高止まりの傾向（例：協働学習、真正な学び）</li> </ul>	<p><b>【AI に負けず成長し続ける組織】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業研究（年 3 回）に向けた小刻みな PDCA</li> <li>・学習チームの機能・人材充実（学力分析）</li> <li>・教科職員室の整備（国数英）</li> <li>・責任の明確化と能力・実績にもとづく処遇</li> <li>・新陳代謝・多様性による緊張感のある職場作り</li> <li>・県外の優良校・人材との交流・出稽古の奨励</li> <li>・研修と実践を通じた生成 AI の導入・定着</li> </ul>

## 5 中期的目標と本年度の重点目標

中期的目標（太字）と重点目標（本年度のものに○）	評価指標	担当
<b>【生徒】21世紀の国際社会に通用する主体的な学び手を創る</b>		
総合知を用いた真正な探究学習を通じ本物の課題解決力を育む （SSH 基礎枠テーマⅠ）	・イノベーション力の向上 ・【KPI】全国規模の大会実績・商用化・特許等	探究
ゆるぎない教科指導を通じ基礎学力を固める （SSH 基礎枠テーマⅡ）	・模試（平均点偏差値） ・【KPI】授業評価	学習
開かれた学びと異文化との出会いを通じ、自ら行動し創造する力を育てる（SSH 基礎枠テーマⅢ）	・行動力／創造力の向上（、参加／受賞実績など）	キャ
最先端のデータ・デジタル技術を身に着けた、卓越したイノベーション人材を育てる（SSH 重点枠）	・【KPI】IT 資格	情報科
異文化との接触を当たり前の日常にする	・【KPI】英検合格者数	キャ
ポストヒューマン時代の生き方を啓発し学ぶ動機につなげる	・保護者参加型キャリアイベントの累積参加者数	キャ
<b>【学校・教職員】時代にあった合理的で生産的な学校運営を行う</b>		
カリキュラム・ポリシーにもとづく6年間一貫した学びを提供する	・BIを用いたエビデンスベースの学校運営を試行する	教務
生徒の AGENCY（自由と責任を扱う力）を育む学校生活を演出する	・自己効力感アンケート	特活
多様な学びを促進する学習環境を提供する	・学校評価「生徒3 学校の施設・設備に満足している。」	情メ
国内外の進学ニーズに応えるカレッジカウンセリングを提供する	・【KPI】進学実績 ・学校評価「生徒6 進路指導の内容に満足している。」	キャ
組織の生産性と財務効率を高める	・残業80時間を超える教職員0 ・教員評価／累積残業時間	全教職員
内外から信頼される学校運営を行う	・生徒事故0, 教員不祥事0, 事務ミス0	生支, 全教職員
<b>【地域社会】地域と連携し共に成長する、開かれた学校となる</b>		

アドミッション・ポリシーにもとづく戦略的な生徒募集を行う	・%ターゲット層獲得	マケ
竜一の価値を効果的に伝え優良な関係者との縁を築く	・フォロワー数（認知・エンゲージメント）	マケ